おおいしみち

（十一）大石道

大石道は、日ノ岡から勧修寺に至る道です。以前はＪＲとの交差地点には踏切がありましたが、花山バイパスの完成により、踏切は廃止され、地下道となっています。

77 遍昭墓（へんじょう）

僧正遍昭は、平安前期の代表的な歌人「六歌仙」の一人であり、小倉百人一首にも遍昭の歌が選ばれています。

天津風　くものかよひぢ　ふきとぢよ　乙女のすがた　しばしとどめん　遍昭

桓武天皇の孫でもあり、元慶寺、六所神社、福應寺の創建に関わるなど花山地域に関わりが深く、ゆかりのあるこの地に埋葬されました。

78 福應寺（ふくおうじ）

創立年代は不詳ですが、僧正遍昭により創立されました。遍昭がこの寺にたくさんの僧侶を集め、講義を行ったことが、この地が「講田町」となった由来となっています。

また平重盛の念持佛と伝えられる安産地蔵尊も安置されており、梵鐘には遍昭の銘があります。

79 清水焼団地

一九六八（昭和四三）年、清水焼団地は完成し、京焼・清水焼の陶芸家、窯元、関連業者がこの地に移転しました。京都の陶器、やきものの文化を守り、毎年「陶器まつり」、「楽陶祭」などのイベントが盛大に行われています。

「陶器まつり」とは毎年七月に三日間開催されるイベントです。陶器はもちろん、郷土産品の販売なども行われるなど、毎年全国各地から多くの人が集まる、京の夏の風物詩として親しまれています。

「楽陶祭」は毎年十月に二日間開催される、伝統を踏まえた文化イベントで、清水焼の魅力とともに、清水焼団地の楽しさに触れることができます。この楽陶祭には京都橘大学の学生も多数参加しており、産学連携により取り組んでいるのが特徴です。

珍しい地名　日ノ岡ホッパラ町

区の北西部にある日ノ岡「ホッパラ」町はカタカナの珍しい地名です。

一九二二（大正一一）年の京都都市計画図には「ホツ原」と表記されていましたが、「ホツ」にはどのような意味があるのでしょうか。

一説には「ほっぱる（放り出す）」という言葉から「ホッパラ」となったという説もあり、地元の古老によれば「農耕や樹木育成に適さぬ荒地で、放ったらかしにしていたことから、この町名になった」との話もあります。しかし正直なところ、詳しい由来は分かっていません。

すべりいしかいどう

（十二）滑石街道

西野山から東山区今熊野に通じる道です。この道はカーブが多い上に冬には凍結することもあり、一説では「冬にここを越えた大石内蔵助も足を滑らせたことだろう」と、「大石も滑る→すべり石」といわれています。

80 西野山古墓

一九一九（大正八）年、地元の人が、竹薮の中から偶然、発見した古墓で、副葬品の多くは国宝に指定されています。

二〇〇七（平成一九）年に多くの文献資料から、坂上田村麻呂の墓とする説が発表されています。

この墓の位置は確認が難しいところです。

滑石街道の脇にひっそりと建つ石碑。

出土遺物の一部。（『京都大学文学部博物館』）

81 砥粉工場（とのこ）

砥粉とは、砥石を削って作った粉末や黄土を焼いて作った粉末で、山科で採れる良質の石（粘板岩および頁岩）が砥粉に適しているため、国内生産のほとんどが山科産です。

昔はＪＲ（当時は国鉄）山科駅に「砥粉列車」といわれる貨物列車が停車しており、列車に積まれ、全国に出荷されていました。

現在では建築用としては需要が減りましたが、漆器の下地や、文化財の修復、ドーラン（舞台、映画撮影などで俳優が使う化粧用の白粉）に欠かせません。

82 大石神社

一九三五（昭和一〇）年、赤穂義士・大石内蔵助の義挙を顕彰するため、内蔵助隠棲の地に創建された神社です。

宝物殿には、大石内蔵助討入り像など忠臣蔵に関係する様々な展示物があり、赤穂義士たちの歴史が凝縮されロマンが溢れています。

境内の大石桜は、その地に生育していた「しだれ桜」を、整備の終えた境内に定植させ、一九三五（昭和一〇）年御鎮座にあわせ、御神木としたもので、区民誇りの木にもなっています。桜が満開の季節には、多くの参拝客でにぎわいます。

毎年一二月一四日に地域の皆さんの手で行われる山科義士まつりでは、赤穂義士四十七士に扮した義士行列が、毘沙門堂を出発し、ここ大石神社を終着地として、山科のまちを練り歩きます。当日は、多くの屋台が出てにぎわい、義士たちが到着すると勇ましい「エイ、エイ、オー」の勝どきが上げられ、山科区地域女性連合会による踊りが披露されます。